

令和7年度「奨励教育費」報告書

学生の主体的活動を支援する教育の研究

—ゼミ活動の充実と認定絵本土活動モデルの構築—

増山由香里（人文学部心理学科子ども心理専攻）  
武井 昭也（人文学部国際教養学科）

## 1. 本研究の目的

クォーター制 105 分授業の導入により、これまで以上に学生の課題意識を喚起し、主体的な活動を支援する教育環境が整った。本研究の目的は、この環境を活かして学生の興味関心を引き出し、活動、情報収集、発信の実態を検証することで、学生の選択機会を広げ、より魅力的な教育の展開を提案することである。さらに、本研究を通して、本学子ども心理専攻の活動および総合情報館・図書館機能の充実と発信につなげることを目指す。

## 2. 研究成果と課題

本研究の目的を達成するため、以下の内容について計画し、実践および調査を行った。

- （１）図書館「えほんのおへや」の活用
- （２）清麗祭「絵本ミニイベント」の開催
- （３）地域の親子や小学生が参加する定期的な活動
- （４）子ども地域食堂「ななかま堂」における絵本活動の充実
- （５）視察情報収集

### （１）図書館「えほんのおへや」の活用

令和7年9月、本学第1期生として59名が認定絵本土として認定された。認定絵本土科目は、1年秋学期と2年春学期に配置されており、早ければ2年次で取得可能である。卒業まで継続して絵本活動に取り組むことは、学びの深化につながるとともに、学生自身の絵本活動の実績形成にもなる。そこで、本学図書館の「えほんのおへや」を活用し、一般開放の実施を計画した。

初年度は増山ゼミ4年生9名が準備から実施までを担い、活動名を「えほんのたね」とした。本活動の目的は、認定絵本土の学びを地域に還元すること、子どもと本をつなぐ実践の場とすること、さらに「えほんのおへや」の開放を通して、子どもが安心できる居場所を提供し、本学の地域貢献につなげることである。図書館スタッフの協力を得て、令和7年11月より活動を開始した。活動の概要は表1の通りである。活動にあたり下記のチラシを学生が作成し、近隣の小学校5か所と幼稚園・認定こども園5か所にポスター掲示とチラシ配布を依頼した。

表 1. 一般開放の概要

|      |                                              |
|------|----------------------------------------------|
| 対 象  | 赤ちゃんから小学生まで<br>※小学生は一人でも参加可能<br>※未就学児は保護者同伴  |
| 場 所  | 第 2 閲覧室「えほんのおへや」                             |
| 時 間  | 毎週金曜日 14 時～17 時<br>※図書館休館日は休み                |
| 活動内容 | 絵本であそぼう<br>絵本の読み聞かせ<br>カードゲーム<br>学校の課題や勉強 など |



活動は令和 7 年 11 月から令和 8 年 3 月までに計 18 回実施した。参加者は延べ 20 名程度であり、参加者がいない日もあったが、継続的に来場する親子も見られ、一定のニーズが確認された。令和 8 年度以降も活動を継続することとし、現在の運営メンバーは 5 名である。今後は認定絵本土取得者の参加を広げること、SNS 等を活用した広報の充実が課題である。また、学生がどのように絵本の学びを継続、深化させていくかについても、引き続き検討が必要である。



「えほんのたね」の様子

広報活動の一環として、令和 8 年 1 月 10 日（土）に冬休みの小学生向けイベントを開催し、絵本作家あべ弘士氏の協力のもと、「北海道の森と動物たち」をテーマに壁画制作を行った。小学生 12 名と大学生 9 名が協同し、あべ氏に指導を受けながら作品を完成させた。本活動は北海道新聞社の取材を受け、広報にもつながった。完成作品は第 2 閲覧室入口横に展示しており、今後來場促進への効果が期待される。



イベント「北海道の森と動物たち」の様子

## （２）清麗祭「絵本ミニイベント」の開催

増山ゼミの模擬店企画の一つとして実施し、今後の絵本活動に関する簡単なチラシを配布した。ゼミで取り組んでいる図書館の絵本展示のテーマが科学絵本であったことから、かがくのとも「ならべかえ」の読み聞かせと関連する遊びを実施した。



絵本ミニイベントの様子

## （３）地域の親子や小学生が参加する定期的な活動

（１）で報告した「えほんのたね」が本活動の中心である。そのほか、本学非常勤講師である笹山氏の勤務先である曙図書館において、「認定絵本土によるおはなし会」を実施した。開催場所が本学から離れていることもあり、参加学生は３名にとどまったが、貴重な体験の機会となった。



「認定絵本土によるおはなし会」の様子

#### （４）子ども地域食堂「ななかま堂」における絵本活動の充実

「ななかま堂」は、増山ゼミで実施しているフィールドワークである。参加者は乳児から高齢者まで幅広く、食事後に「おはなし（絵本）の時間」を設けている。担当学生は季節や行事などに関連づけながら、複数の絵本を選び、当日の参加者の様子に応じて読み聞かせを行うことができた。



子ども食堂と絵本の時間の様子

#### （５）視察情報収集（武井）

##### ① ３月 28 日青森県立図書館、青森市民図書館

青森県立図書館は昭和 3 年に青森市立図書館の県への寄付により設立された。その後、戦災や改築、火災を経て、平成 6 年新館がオープンした。

1 階一般閲覧室脇に児童閲覧室、児童図書研究室、そしてお話しコーナーが併設されている。しかしながら、県立図書館は立場上、県内図書館の中心館として役割からその目的があり、絵本図書館としての機能は今後の課題という印象である。絵本図書館としての機能は青森駅前複合ビルの青森市民図書館が担っている。



児童閲覧室



お話しコーナー



児童図書研究室

##### ② ３月 29 日弘前図書館駅前分室「こども絵本の森」



図1 ヒロロ3階フロア <https://www.hirorosquare.jp/floormap.html>

(文部科学省資料)

[https://www.google.com/url?sa=t&source=web&rct=j&opi=89978449&url=https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2014/04/09/1346575\\_001.pdf&ved=2ahUKEwiAx-PngI6UAxULsVYBHUVMGFYQFnoECBcQAQ&usg=AOvVaw03iWDobdmg4BvHPuLI1lBx](https://www.google.com/url?sa=t&source=web&rct=j&opi=89978449&url=https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2014/04/09/1346575_001.pdf&ved=2ahUKEwiAx-PngI6UAxULsVYBHUVMGFYQFnoECBcQAQ&usg=AOvVaw03iWDobdmg4BvHPuLI1lBx)

様々な利用者へのサービス

子育て世代を応援する図書館  
～みんなの笑顔に会える場所～

弘前市立弘前図書館駅前分室 とも絵本の森 (青森県弘前市) <http://www.hi-it.net/~tosho/>

基本データ (数値はH25年現在)

住所

弘前市大学駅前町9-20ヒロロ3階

電話番号

0172-35-0155

人口 (図書館が所在する市町村)

179,803人

職員数 (うち有資格者数)

5人 (0人)

蔵書数

3,068冊

登録者数

219人

目的・趣旨

次代の弘前を担う子供たちが健やかに生まれ育つことを願い、出産や育児のたすけとなる子育て関連の図書資料を用意し、子育て中の保護者を支援する。また、乳幼児向けの絵本などの図書資料をとおして親子のふれあいの大切さを伝えるとともに、子供たちの幼少期からの読書推進に努める。

取組概要

●五感の発達を促す図書資料の収集・展示 (例) しかけえほん (ポップアップ、つまみひき、手触り、めくり等)、こするとにおいがするえほん、音が出るえほん、指人形えほん、布えほん等

●「えほんのもりのおはなしかい」の開催

●郷土の絵本作家「ささやすゆき」さんの紹介と原書の展示 (書表の外側にパネルを設置し、紹介)。原書の他には、手づくり絵本講習会で参加者が作成した絵本のページをパネルにして紹介。

特徴

・JR弘前駅から徒歩3分の位置に立地する商業施設ヒロロの3階 (ヒロロスクエア) 内に、平成25年7月27日に開設。ヒロロスクエアは、子育て・健康・交流・行政エリアの4つの機能からなり、こども絵本の森は子育てエリアに属し、子育て支援センターと連携をとりながら事業運営を行っている。各エリアは独立しながらも、フロアは仕切りがない開放的な空間となっており、多世代交流の場となっている。

・商業施設内のため、休館日は毎月第3水曜日と特別蔵書点検期間 (年3日程) としており、土、日、祝日、年末・年始も開館している。図書返却ポストを設置しているため、閉館時でも図書の返却が可能である。

・毎月第1・2・3日曜日に「えほんのもりのおはなしかい」を開催し、読み聞かせボランティアの協力を得ながら、本をとおして親子のふれあいの大切さを伝えるなど、読書活動の推進を図っている。

・子育て世代への支援を目的とした施設のコンセプトに基づき、育児関係の図書資料を選びやすいようにジャンル別で配架しているほか、乳幼児向けの絵本も、内容によりコーナーをつくって配架している。

取組の成果と今後について

JR弘前駅近くという恵まれた立地のため、市外からの利用者も多くみられる。また商業施設内に開設したことで、買い物ついでに足を運ぶことができ、気軽に図書館に来ることができると好評である。隣接するこどもの広場では、積み木やおもちゃで遊ぶ子供たちの声が聞こえ、にぎやかな空間となっている。利用者からは「本館では、子供が騒いだらどうしようという不安があったが、ヒロロでは気兼ねなく利用できる」というご意見をいただいている。その一方、開放感あるフロアのため、音が響き、読書中気になるという声があることや、蔵書数が少ないことなど課題は残っている。しかしながら、子育て世代に大変便利な施設であることは間違いないと、リピーターや新規の利用者の増加に向けて更に工夫改善に努めていきたい。また、ヒロロスクエア全体の事業運営との関わりについても考慮していく必要がある。

### 3. まとめ

本研究では、クォーター制 105 分授業という教育環境を基盤として、学生の主体的な学びを促進する取り組みを実践し、その可能性を検証した。とりわけ、「えほんのおへや」を拠点とした活動や地域と連携した実践を通して、学生が学内外で学びを展開し、知識の習得だけでなく、実践的な力を育む機会を持つことができた。

また、認定絵本土の学びを地域へ還元する活動は、子どもと本をつなぐ場として一定の意義を有するとともに、本学の地域貢献の一端を担うものとなった。一方で、参加者の拡充や継続的な運営体制の整備、広報の工夫など、今後の課題も明らかとなった。

今後はこれらの課題に対応しつつ、学生の学びの主体性と継続性をどのように支えるのかを検討し、図書館機能と教育活動を結びつけ、より発展的な教育実践へとつなげていくことが求められる。さらに取り組みの成果を発信することで、子ども心理専攻の教育的価値の向上にもつなげていきたい。